野山の花

— 身近な山野草の食効・薬効 —

城西大学薬学部　白瀧 義明（*SHIRATAKI Yoshiaki*）

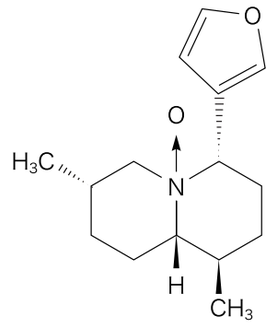
コウホネ *Nuphar japonicum* DC.（スイレン科 Nymphaerceae）

写真 1　コウホネ（遠景，箱根湿生花園）

北海道～九州にかけての池，沼などに生える水生の多年草です。夏の暑い日，水辺で涼んでいるとき，ハス，ヒシなどに混ざって涼しそうに咲いている黄色の花を見かけることがあります。これがコウホネ（川骨，河骨）です。実は花のように見えるのは，がく片で花弁はその内側にあり小さくて目立ちません。本植物の葉は，水面から上に出る抽水葉（水上葉）と水面下にある沈水葉（水中葉）からなり，抽水葉は大形の長卵形で，その基部は矢じり形をしており，水深の深い場所では，水面に浮かび，水深の浅い場所では，立ちあがっています。一方，沈水葉は膜質で細長く葉の縁は波打ち，水底にあって水面には出てきません。尾瀬ヶ原の池塘にも同属のオゼコウホネが生えています。他にも数種類のコウホネ属植物がありますが，オゼコウホネは柱頭盤が紅色でネムロコウホネは淡黄色です。**写真 3** は，サイジョウコウホネ（西条河骨）といわれ，広島県の低地の湖沼に特産し，植物名は広島県西条盆地にちなんで名付けられたそうです。あまり見る機会はありませんが，水底の地中には白い海綿質の地下茎があり，これが動物の白骨のようなのでコウホネの名がついたと牧野富太郎博士は説明しています。秋～冬に採集した根茎を二つ割にして乾かしたものが生薬のセンコツ（川骨）で，健胃，強壮，止血，駆瘀血薬として産前，産後の出血，月経不順などに用いられます。婦人薬で有名な実母散にもトウキ（当帰），センキュウ（川芎）などと共に配合されています。また，打撲による腫れや痛みを和らげる漢方薬にヂダボクイッポウ（治打撲一方）という処方があり，これにも配合されています。しかし，不思議なことに中国の本草書に川骨の名はなく，「萍蓬草根：ヒョウホウソウコン」がセンコツに当てられています（中薬大辞典，#4590）。センコツの仲間はキンポウゲ科に近く根茎に含まれるヌファリジン nupharidine などのキノリチジンアルカロイドが有効成分だそうで，民間では乳腺炎に本植物の生の根茎を擦りつぶして小麦粉と一緒に練ったものを患部に塗ると良いとされています。

写真 2　コウホネ（箱根湿生花園）

写真 3　サイジョウコウホネ（箱根湿生花園）



nupharidine の構造式